

セカンドステップとは？

あゆみ

構成

背景

- 最近 10 代の子どもが殺人などの凶悪事件を犯すニュースが後を絶ちません。

これは、子どもたちが人間関係をうまく結べず、社会に適応していく力（社会的スキル）が育っていない結果の悲劇です。低年齢化する不登校、暴力、いじめなどの問題にも、このことが影を落としているのではないかと感じます。

これまで、幼児期に子ども同士が集団で夢中になって遊ぶ中で、欲求をぶつけ合い、体験的にその解決法を身につけながら成長していくものだと思われていました。

けれども、現実には少子化や、安心して遊べる空間や時間の確保が困難な状況で、子どもたちは社会的スキルを獲得できないまま、大きくなっているのです。

そのために、幼児期に集団の中で、社会的スキルを身につけ、問題を解決する能力と、怒りや衝動をコントロールできる方法を意図的に学ぶことが必要になってきたのだと言えるでしょう。

- 「セカンドステップ」は、日本こどものための委員会が Committee for Children (CFC) より、翻訳、出版・販売・研修・講義・実践等に関して、日本国内で行う権利を唯一認められ、提供しています。

- 1979 年に設立されたアメリカ・シアトル市の NPO 法人 Committee for Children (CFC) は、最初大人の虐待から子ども自らが身を守る「被害者にならないためのプログラム」を開発しました。

それに次いで「子どもが加害者にならないためのプログラム」として作成されたのが「セカンドステップ」です。

- 2001 年には、全米で「最も効果的なプログラム」として、米国教育省より最優秀賞を受けました。

現在、北米の 18,000 校で約 1,200 万人の子どもがこの教育を受け、ノルウェー、ドイツ、デンマーク、英国でも、すでに学校で使われています。



- セカンドステップの教材は、4～8歳・小学校1～5各学年・中学生などのレベルに分かれています。

それぞれの段階に応じた教材を使って、子どもが常に考えながら参加できるようにディスカッション、ゲーム、ロールプレイなどでレッスンが進められます。

4～8歳用は、毎週 30 分、28 週間のカリキュラムです。



内容

- セカンドステップは
 - ① 相互の理解…自分の気持ちを表現し、相手の気持ちに共感してお互いに理解し合い思いやりのある関係をつくる
 - ② 問題の解決…困難な状況に前向きに取り組み、問題を解決する力を養って、円滑な関係をつくる
 - ③ 怒りの扱い…怒りの感情を自覚し、自分でコントロールする力を養って、建設的に解決する関係をつくる

の 3 本柱からなっています。